

第6章

実施時トピックス

第6章 実施時トピックス

実際の測定やトレーニングを通じて当初はあまり予想していなかったさまざまなトピックス的な事象も体験することができた。そのいくつかを紹介する。

1. 先生も体験

学校の教師にとっても今回の最新科学とテクノロジーを用いた運動能力測定は興味深いものであった。いくつかの学校では教師自身も測定を体験し、自らのデータを元に体力作りの課題が明確になることに対して、関心を持っていただいた。

2. 常に笑顔で運動

測定の合間や終了した子どもたちを対象として実施した各種の運動遊びやさまざまな活動を通して、測定やトレーニングを通して、科学的そして分析的に身体運動に対して眼を向けることを指導される一方で、友達とワイワイガヤガヤと楽しく走り回ったり、ルールのあるゲームとして活動したりすることの感性的な楽しさに触れ、運動や身体活動といったものに対しての新鮮な感覚に迫れたかもしれない。真剣な中にも常に笑顔で取り組んでいたように思われた。

3. トレーニングにもデータを使って

前後の測定だけではなく、トレーニング中にデータを活用する場面もあった。それによって課題解決のプロセスを確かめることができ、子どもも指導者もより適切な解決手段を講じることが可能となった。効率よく、測定を指導に絡めることができればさらに効果的な指導、客観的なエビデンスに基づいた説得力のあるトレーニング指導が可能となると思われた。

4. みんなが見つめる中で緊張の再テスト

トレーニング後の再テストは子どもたちのみならず、指導者にとっても緊張する一瞬であった。1回でタイムを短縮した子どもが1回目に短縮できなかった友達を励まし、みんながタイム短縮に対して喜び、うまくいかないことに悔しがるといふ、ともに同じ課題解決に向けて取り組んだ者同士の励ましあいという場面が数多く見られた。

図18. みんなが見つめる中で緊張の再テスト



図19. いいスタート!!



5. 大学生とのふれあい

補助をした大学生も、子どものタイム短縮や運動能力の改善に対し、自分のことのように喜び、励ました。指導や測定の補助を通じてどのような言葉かけが効果的か、どのように子どもたちを励ませばよいかといった実践的学修は、今後のスポーツや体育の指導者、パフォーマンス分析のスペシャリストを目指す上で極めて貴重な体験であったと思われる。

図20. 大学生とふれあう子どもたち



図21. 大学生にとっても
よい経験となった



